

## <対策のポイント>

米の輸出拡大や麦・大豆の増産による食料安全保障の確保に向けては、米の多収品種の導入やブロックローテーションによる米・麦・大豆等の収量向上によって生産コストを低減しつつ生産力を強化する必要があることから、産地における米の超低コスト化や、最適なブロックローテーションの構築を目指し、米・麦・大豆等の収量向上と生産コスト低減意識の醸成を基調とした水田経営モデルの確立に向けた取組を支援します。

## <事業目標>

- 担い手の米生産コスト（9,600円/60kg）

## <事業の内容>

### 1. 米の超低コスト生産モデル確立支援

米の輸出拡大等に向けて、農業者や地方自治体、農業団体など地域の関係者が連携して、大幅なコスト低減を目指す産地に対して、**コスト分析やコスト低減に係る取組状況の把握、課題抽出、必要となる技術・多収品種の導入実証、人材育成等の取組を総合的に支援**します。

（補助率：定額（上限1,000万円/コンソーシアム））

※1 事業実施期間は最長3年間とします。

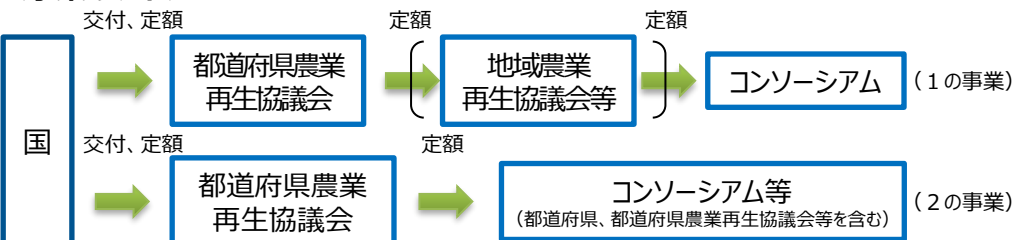
※2 1年目及び2年目の年度末に各産地の取組状況や成果について中間評価を行い、翌年度の支援対象産地を決定します。

### 2. ブロックローテーションの最適化モデル確立支援

都道府県農業再生協議会が水田における最適なブロックローテーションを普及するため、**管内の優良事例を調査するとともに、更なる収量の向上やコスト低減に向けた技術実証や品種導入等の取組を支援**します。

（補助率：定額（上限500万円/コンソーシアム等））

## <事業の流れ>



## <事業イメージ>

### 米の超低コスト生産モデル確立支援



### <超低コスト生産に向けた取組>

- 産地や担い手の生産コストの現状把握・分析
- コスト低減に係る取組状況の把握、課題の抽出
- コスト削減に向けた技術・多収品種の実証、人材育成
- 取組成果の検証と改善策の検討

### ブロックローテーションの最適化モデル確立支援

### <最適なブロックローテーションの普及に向けた取組>



- コスト構造の分析や優良事例の調査、調査結果の普及
- 更なる収量の向上やコスト削減に向けた技術等実証や品種導入